

ICTの導入に伴う庁舎のあり方

情報化の進展にともない「ひと・もの」の直接的なつながりが、より大切な社会となっている。小鹿野町新庁舎においては、将来のICT技術の進展によるサービスの合理化によって生じた余剰スペースを「ひと・もの」が直接ふれあい、町のコミュニケーションの中心となる用途への転用を見据えた「長寿命でフレキシビリティの高い建物」を計画する。

町民大広間

- ・小鹿野歌舞伎稽古場 ・芝居小屋 ・町民ギャラリー
- ・特産品のPRコーナー ・町の歴史展示 ... etc.

会議・打合せスペース

- ・図書館のサテライト ・カルチャーセンター
- ・お年寄りと子供の交流スペース
- ・高齢者見守りボランティア連絡所
- ・町職員の交流スペース ・カフェ ... etc.

執務スペース

- ・庁内の組織改変 ・他の公共サービス機関
- ・民間/NPO ... etc.

余剰スペース転用の例

フレキシビリティに配慮した庁舎設計

効率的で自由度の高い施設計画

- ・防火区画が最小になる準耐火構造を採用（間仕切変更が容易）
- ・耐力壁を外周部に配置（内側で自由なレイアウトが可能）
- ・パサージュに面してコア（階段、EV、WC）を配置（執務スペースの間取りが変更してもアクセスが可能）
- ・構造/設備/家具配置のモジュール化（レイアウト変更が容易）
- ・階ごとに会議室、打合室を隣接配置（可動間仕切で室サイズの自由度）
- ・余裕をもたせた設計荷重設定（積載荷重の変更可能）
- ・高耐荷重性のフリーアクセスフロアを採用（積載荷重の変更可能）
- ・余裕のある天井懐（設備の増設変更が容易）
- ・設備仕様の基準となる使用者数に余裕を見込（利用者数の増加可能）

開放性とセキュリティの両立

- ・明確な区画が可能なセキュリティゾーニングを行い、利用時間、将来のレイアウト改変に応じたエリア開閉がしやすい計画
- ・執務スペースの設備系は個別にエリア運転可能な計画とし、休日や早朝・夜間の執務に対応

お祭り、イベント時に対応可能な外部空間

- ・敷地南の旧社殿に面するエリアは、春祭りの屋台、笠鉦の曳行スペースであり、給排水・仮設電源に対応（通常は駐車場）
- ・北側エントランス廻りはイベント時にも来庁者を受け入れる、町にひらかれたスペース

建物の長寿命化への取り組み

木部の耐久性を高めるディテール

水を滞留させない

- ・雨水が滞留しにくい勾配屋根
- ・軒の出を深くとり雨水と紫外線から守る
- ・水切り、水平壁見切り等を設置
- ・通気層を設け内部結露を防止

地面から離す

- ・柱脚木部は地面から十分な高さを確保

保護層の設置

- ・露出する小口面に保護板を設置
- ・防蟻防腐処理、浸透性保護塗料を塗布

容易な部材交換

- ・部分的な交換が容易な部材寸法

改修や更新をやすくし、地元でできる工夫を徹底

- ・シンプルでコンパクトな形状、同スパンの反復により部材種を削減
- ・設備機器の耐用年数の同期化、設備配置ルートの集約化により不要な道連れ工事をなくし、修繕改修を効率化
- ・十分な広さのメンテナンススペースを確保

